

## 【筑波大学附属駒場中学 算数】

### 【総評】

大問4問の構成は変わらず。小問12問のうち、8問以上の正解が合格ラインと思われる。例年、2問間違えただけが合格ラインと考えられたことと比べて、今年はかなり難化したと言わざるを得ない。このような出題の場合こそ取るべき問題を確実に解けるか否かが合否を左右する。どの大問も小問が3問ずつあるうち、(1)(2)はすべて落とせない。

「試験時間のマネジメント」と「解くべき問題の取舍選択」が合格のカギになるのは、筑駒算数の一番の特徴である。本年度の出題では、大問4つのそれぞれ最後の小問は1問も解けなくても他の科目との兼ね合いで合格できた受験生もいる。大問1と大問2の最後の小問に時間を取られると、最後まで解ききれない受験生もいたのではないかと。難しい問題を考え込む時間を確実に得点すべき問題の確認に当てることが試験時間のマネジメントである。

出題された単元は、規則性、場合の数、速さ、図形の移動から各1問で、これは筑駒としては非常にオーソドックスな出題範囲であった。筑駒志望者はこの4つの単元は特に練習を積んでおくべきであろう。

4つの大問それぞれにある一番最後の小問はどれも難しいが、今回唯一得点できそうなのはこの〔4〕(3)の問題であった。とはいえ、ていねいな作図と、二等辺三角形の発見という図形では定番の発想を冷静に思い出せることができたか？面倒な計算をていねいにしかも工夫してできるだけ簡単に解くことができたか？など、正解を出すために高い実力が問われる。

難しい問題を考えるために時間を浪費せずに解ける問題からしっかり正解していくという問題の取り組み方を習得するためには、漫然とした問題演習だけでは難しく、やはり過去問や予想問題など、筑駒の出題形式と難易度を兼ね備えた徹底的な問題演習が必要になる。

### 【細評】

#### 〔1〕ルールと試行 規則性の発見 小問3問

0から2048までの看板を1kmの距離の道路に等間隔に記された順番で立てていく問題。個数が多いために、力業で調べる解法を選択すると時間がなくなってしまう。

#### 〔2〕場合の数 小問3問

長さ1cmの線を長方形の形にならべ、内部を1辺1cmの正方形で分割されるようにさらに線を並べたときに、1つの点から、すべての線をなぞってもとの点に戻るときのなぞり方を求める問題。ていねいに調べることと、(1)(2)の結果を上手に利用する発想が筑駒では常に求められている。

#### 〔3〕速さ・点の移動 小問3問

15m離れた2点A、Bをまっすぐつなぐ電飾ケーブルを、赤、白、青の光の点が指定の速さと動き方をして移動するときにすべての光の点が重なるまでの時間と重なる場所を求める問題。決して難しい問題ではないので、あせらず正確に解答を出すことが重要。

#### 〔4〕平面図形の移動 小問3問

半径5cmの円の内部に、 $30^\circ$ の頂角を円の半径と同じ5cmの2辺ではさむ形二等辺三角形ABCがあり、これが転がる様子を答える問題。(3)はていねいに作図する力と、二等辺三角形の底辺を2.6cmとして計算する意味を理解できるか、がカギ。決して難しくはないので、しっかり得点しておきたい。